

## III-2

### 経済的持続可能性—最低限所得保障と労働時間

『北欧語の世界を読む』で「持続可能性」を話題にし、その後このサイトのIII-1.で「生態的持続可能性」について考えました。次に取り上げるのは taloudellinen kestävyys「経済的持続可能性」ですが、ある意味で経済的持続可能性をめざしてフィンランドが 2017-2018 年に行ったのが perustulo「最低限所得保障（ベーシックインカム）」に関する実験です。この「最低限所得保障」実験を切り口に、持続可能性や労働時間について考えていくことにします。したがって、経済政策などは取り上げません。それについては、テーマIVで少しですが考える予定にしています。

#### 【1】経済的持続可能性の条件とは？

Se tarkoittaa tasapainoista, kestäväää kasvua, joka ei perustu pitkällä aikavälillä velkaantumiseen tai pääoman, kuten luonnonvarojen liikakäyttöön tai hävittämiseen. Kestävä talous on edellytys yhteiskunnan keskeisille toiminnoille sekä kansallisen hyvinvoinnin edistämiseksi. Taloudellinen kehitys on kestäväää silloin, kun maapallon resurssit ehtivät uusiutua nopeammin kuin niitä käytetään.

#### ■ 語句・文法

se = taloudellinen kestävyys / tasa-painoinen「バランスのとれた」 < tasa-paino / aika-väli「期間、タイムスパン」 / velkaantumiseen「債務を負うことに」動名[入] < velkaantua < velka / pää-oma「資本」 / liika-käyttö「乱用、乱開発」 / hävittämiseen「消すことに」動名[入] | < hävittää < hävitä / toiminnoille「活動へ」[複入] < toiminta < toimia / edistämiseksi「促進することに対して」動名[向] < edistää / uusiutua「再生する」 < uusi / nopeammin「より速く」 [副] 比 < nopea

#### ● フィンランド語理解のための訳例

それ(=経済的持続可能性)は意味する | [バランスの取れた持続可能な成長を、|それはもつけない | 長期的には | 債務に陥ることに | あるいは資本の | たとえば天然資源のような | 乱用や消すことには]。持続可能な経済は前提条件である | 社会の中心的な活動にとって | そして国民福祉を促進することによって。経済発展は持続可能である、<次のときに> | [地球の資源が再生する時間がある場合に | より速く | それらが使用されるよりも]。

#### ◎ 意識

経済的持続可能性とは長期的には、負債に陥ることや、あるいは天然資源などの資本を乱用し破壊することにもつけないような持続的な成長を意味している。持続可能な経済というものは、社会の中心的な活動や国民福祉の増進の前提条件である。利用されるよりも速い速度で地球上の資源が再生することができるときにこそ、経済発展は持続可能なものだといえる。

#### ★ 補足

そもそも「利用されるよりも速い速度で地球上の資源が再生することができる」ような経済活動が、そんなに簡単に実現できるとは思えませんが。また、経済活動とは本来であれば人間を幸せにするはずののですが、逆に経済活動が人間を苦しめているように思うのは私だけでしょうか。そのような議論は置いておいて、次へ進みます。

## 【2】経済的持続可能性と公共財政

Taloudellinen kestävyys tarkoittaa sekä julkisen talouden että laajemmin koko kansantalouden vakautta ja toimivuutta. Tässä yhteydessä keskitytään erityisesti julkisen talouden kestävyteen, johon Suomessa liittyy varsinkin ikärakenteen muutoksen myötä haasteita. Haastetta voimistaa ennakoitu hidastuutuottavuuden ja siten talouden kasvu sekä muita Pohjoismaita alhaisempi työllisyysaste sekä alhainen syntyvyys ja vähäinen työ- ja koulutusperäinen maahanmuutto.

### ■ 語句・文法

julkinen talous「公共財政」/laajemmin「より広く」[副] 比 < laaja / kansan-talous「国民経済」/vakaus「安定」< vakaa / toimivuus「機能性」< toimiva 能現分 < toimia / keskitytään「集中する」受現 < keskittyä / ikä-rakenteen「年齢構成の」[属] < -rakenne / haasteita「課題が」[複分] < haaste < haastaa / ennakoitu「予測されているような」受過分 < ennakoida < ennako / tuottavuus「生産性」/siten「そうして」/alhaisempi「より低い」比 < alhainen < ala / työllisyys-aste「就業率」/syntyvyys「出生率」< syntyvä 能現分 < syntyä / -peräinen「～を理由とするような」(työ-perusteinen や koulutus-perusteinen という表現の方が推奨されているようです) / maahan-mutto「移住、移入」

### ● フィンランド語理解のための訳例

経済的持続可能性とは意味する|公共財政の|そして、より広くは|国民経済全体の安定と機能性を。この関係では集中する|とくに|公共財政の持続性に、|それにフィンランドでは結びつく|とりわけ年齢構成の変化に伴う課題が。課題を強める|[予測される遅い|生産性の、そうして経済の成長が|そして他の北欧諸国よりも低い就業率と|そして低い出生率|そして少ない労働や教育を理由とする移入が]。

### ◎ 意識

経済的持続可能性とは公共財政の、より広い意味では国民経済全体が安定し、機能することである。ここでは、とくに公共財政の持続性に焦点を当てることにするが、この公共財政の持続可能性という問題については、高齢化による社会全体の年齢構成の変化にともないフィンランドにおいては課題が生じている。この課題をさらに深刻なものにしているのは低い生産性、ひいては経済成長の鈍化が予想されていることに加え、他の北欧諸国よりも就業率が低くなっていることであるが、さらに出生率が低いことや、労働・教育移民が少ないことも、公共財政の持続可能性に関する課題をさらに深刻なものにしている。

### 【3】経済政策の目的とは何か

Talouspolitiikan päämääränä on hyvinvoinnin lisääminen. Se tarkoittaa ekologisesti ja sosiaalisesti kestävää talouskasvua, korkeaa työllisyyttä ja kestävä julkista taloutta. Talouden vakauden ansiosta vältetään yllättävät, hyvinvointia heikentävät muutokset ihmisten elämässä.

#### ■ 語句・文法

vältetään「避ける」受現 < välttää／yllättävät「突然の、驚かすような」[複主対]< yllättävä 能現分 < yllättää／heikentävät「弱めるような」[複主対]< heikentävä 能現分 < heikentää < heikko

#### ● フィンランド語理解のための訳例

経済政策の目的としてある|福祉の増進が。それは意味する|[生態的に、そして社会的に持続可能な経済成長を、|高い就業率を|そして持続可能な公共財政を]。経済の安定のおかげで|避ける|[突然の、福祉を弱めるような変化を|人々の生活における]。

#### ◎ 意識

経済政策とは人々の福祉を増進させることを目的としている。それは生態的、そして社会的に持続可能な経済成長を、あるいは高い就業率を、さらには持続可能な公共財政を達成することを意味している。安定した経済のおかげで、人々の日々の福祉を脆弱なものにするような突然の変化を避けることができるのである。

#### ★ 補足

ここでの【2】の文章の中では「低い就業率」が問題の一つとして指摘されており、【3】では「高い就業率」が経済政策の目標として挙げられています。つまり、これらの主張においては就業率を高めることが経済的持続可能性の達成にとって非常に重要だということのようです。【4】から【8】で見ると、就業率を高めることを目標にフィンランドにおいて実施されたのが、perus-tulo（最低限所得保障）の実験です。その実験の報告書において「最低限所得保障」は次のように説明されています。

### 【4】perustulo「最低限所得保障」とは

Perustulo oli lähtökohtaisesti vastikkeeton etuus, jota ei tarvinnut hakea ja jonka saamiselle ei ollut erityisiä ehtoja. Esimerkiksi työttömän henkilön ei tarvinnut ilmoittautua työnhakijaksi TE-toimistoon. Vastikkeettomuuden tavoitteena oli vähentää etuuden saamiseen liittyvää epävarmuutta ja byrokratiaa.

#### ■ 語句・文法

lähtö-kohtaisesti「原則として」／vastikkeeton「無償の、見返りを求めないような」< vastike⇒ vastata／etuus「利益、権利、給付、付与」< etu／saamiselle「入手することに対して」動名[向]<

saada/ilmoittautua「申し出る、登録する」< ilmoittaa/työn-hakija「求職者」/TE-toimisto「職業安定所」(= työ- ja elin-keino-toimisto) /vatikkeettomuus「無償であること」< vastikkeeton/etuuden saamiseen liittyvää「給付を受けることに関係するような」(saamiseen 動名[入]< saada, liittyvää[分]< liittyvä 能現分 < liittyä) /epä-varmuus「不確かさ」/byrokratia「官僚主義」

### ●フィンランド語理解のための訳例

最低限所得保障は原則として無条件の給付であった、|それを必要はない|申請する|そして、それを受け取ることに|なかった|特別な条件は。たとえば、失業している人は|必要なかった|[申し出る|求職者として|職業安定所へ]。無条件であることの目的としてあるのは|[減少させること]であった|給付を受けることに関係するような|不確かさと官僚主義を]。

### ◎意訳

最低限所得保障というのは、原則として無条件の給付であった。それは申請する必要もないし、それを受け取ることに特別な条件というものもなかった。たとえば、失業者は職業安定所に求職者であるという登録をする必要もなかった。最低限所得保障を無条件の給付とした目的は、給付を受け取る際のあいまいさや官僚主義というものを軽減させることであった。

### ★補足

最低限所得保障が通常の失業保険給付などと大きく異なる点は、それが無条件に給付されるという点にあるようです。それにより、たとえば給付する側における事務作業が簡素化されるといったことも指摘されています。

### 【5】フィンランドにおける最低限所得保障実験はどのように実施されたのか

Suomen perustulokokeilu toteutettiin vuosina 2017–2018. Perustulokokeilun koeryhmään valittiin satunnaisotannalla 2 000 henkilöä työmarkkinatukea tai peruspäivärahaa Kelasta marraskuussa 2016 saaneista 25–58-vuotiaista. Muut samana ajankohtana työttömyysturvaa saaneet muodostivat kokeilun verrokkiryhmän. Kela lähetti tiedotteen perustulosta jokaiselle koeryhmään kuuluvalla, eikä kokeiluun osallistumisesta voinut kieltäytyä. Perustuloa maksettiin koeryhmään kuuluville 560 euroa kuukaudessa, mikä vastasi peruspäivärahan tai työmarkkinatuen nettomäärää.

### ■語句・文法

kokeilu「実験」< kokeilla/toteutettiin「実施された」受過< toteuttaa < tosi/koe-ryhmä「実験に参加する集団」/valittiin「選ばれた」受過 < valita / satunnais-otanta「無作為抽出」(satunnainen「無作為の」< sattua, otanta「抽出」< ottaa) /työ-markkina-tuki「労働市場給付金」(通常の失業保険給付を受けられない人のための補助金) /perus-päivä-raha「失業基礎給付」/Kela (= Kansan-eläke-laitos)「社会保障機構」(直訳すれば「国民年金機構」だが、年金だけではなく、さまざまな社会保障を任務としている) /saaneista「受け取っていたような」[複出]< saanut

能過分 < saada / työttömyys-turva 「失業給付（「労働市場給付金」や「失業基礎給付」などの全体のこと）」 / saaneet 「受け取っていたような人々」 [複主] < saanut 能過分 < saada / verrokki-ryhmä 「（比較）対照群（ここでは最低限所得保障を給付されない集団のこと）」（verrokki < verrata） / tiedotteen 「告知を、冊子を」 [属対] < tiedottaa < tieto > tietää / kuuluvalle 「属するよ  
うな人へ」 [向] < kuuluva 能現分 < kuulua / osallistumisesta 「参加することから」 動名 [出] < osallistua < osallistaa < osallinen < osa / kieltäytyä 「拒否する」 (+ [出]) / netto-määrä 「所得（控除額などを差し引いた「差し引き支給額」）

### ●フィンランド語理解のための訳例

フィンランドの最低限所得保障実験は実施された | 2017-2018 年に。最低限所得保障実験の対象集団には | 選ばれた | 無作為抽出により | 2000 名が | [労働市場給付金、あるいは失業基礎給付を | 社会保障機構から | 3 月に | 2016 年に | 受け取っていたような | 25 から 28 歳のうちから]。[ほかの | 同じ期間に | 失業給付を受けていた人々は] | 形成した | 実験の比較対照群を。社会保障機構は送った | 冊子を | 最低限所得保障について | すべての | 対象集団に属する人々へ、 | そして実験に参加することから | できなかった | 拒むことは。最低限所得保障は | 支払われた | 対象集団に属する人々へ | 560 ユーロが | 毎月、 | それは相当した | 失業基礎給付、あるいは労働市場給付金の差し引き支給額に。

### ◎意訳

フィンランドの最低限所得保障実験は 2017 年から 2018 年にかけて実施された。2016 年 3 月の時点において社会保障機構から労働市場給付金、あるいは失業基礎給付を受け取っていた 25 歳から 28 歳のうちから 2000 名が実験の対象集団に無作為に抽出された。同じ時期に失業給付を受けていた人々が実験の比較対照群となった。実験の対象集団に属するすべての人々には社会保障機構から冊子が送られたが、実験への参加を拒否することはできなかった。対象集団に属する人々には最低限所得保障として毎月 560 ユーロが支払われたが、それは失業基礎給付、あるいは労働市場給付金の差し引き支給額に相当する額であった。

### ★補足

さて、2017 年から 2018 年にかけて最低限所得保障の実験が実施されたわけですが、そもそも政府が最低限所得保障実験を実施した目的は何だったのでしょうか。それは、【2】【3】の文章でも出てきた「就業率の上昇」を目的としたものだったようです。その意味では、少なくとも当時の政府が考えていた「経済的持続可能性」というものの実現をめざした実験だったといえるでしょう。

### 【6】最低限所得保障実験の目的は就業率を上げること

Myös Sipilän hallituksen toimeksiannossa keskityttiin ennen kaikkea työllisyysvaikutuksiin. Toki Suomessakin hyvinvointi ja sosiaaliturvan kannustinongelmat tulivat myöhemmin mukaan kuvaan. Hyvinvointiteemat olivat kuitenkin selvästi alisteisia työllisyyskysymyksille. Hallituksen toimeksiannossa

kokeilu oli työllisyyskokeilu.

### ■ 語句・文法

Juha Sipilä (1961-) は実業家であり 2015 年から 2019 年まで中央党党首として首相を務めたが、その期間に最低限所得保障に関する実験が実施された / toimeksi-anto 「指示」 < antaa toimeksi / keskityttiin 「集中した」 受過 < keskittyä < keskittää < keski- / ennen kaikkea 「なかでも、とりわけ」 / työllisyys-vaikutus 「就業に対する影響」 / toki 「確かに、もちろん」 / kannustin-ongelmat 「インセンティブの問題」 (kannustin 「インセンティブ、鼓舞するもの」 < kannustaa) < これについては次の【7】の文章で触れます > / tulla mukaan kuvaan 「登場してくる、視野に入って来る」 / alisteisia 「従属的な」 [複分] < alisteinen < alistaa < alinen < ali

### ● フィンランド語理解のための訳例

また Sipilä 政権の指示においても、|集中した|なにより|就業率<に対する>影響に。確かにフィンランドにおいても|福祉と社会保障のインセンティブの問題は|来た|後に|一緒に|絵の中へ。福祉のテーマは|しかしながら|明らかに|[従属していた|就業率の問題へ]。政府の指示において|実験は|就業率<に関する>実験だった。

### ◎ 意訳

またフィンランドの Sipilä 政権の指示においても、最低限所得保障に関する実験は何より就業率に対する影響に力を集中することになっていた。確かにフィンランドにおいても、福祉や社会保障のインセンティブに関する問題が後に実験の視野に入って来た。しかしながら福祉にかかわるテーマというものは、明らかに就業率の問題に従属するものとされた。つまり、政府の指示において最低限所得保障実験はあくまでも就業率に関する実験だったのである。

### 【7】 就業率を上げる障害となる「福祉の罠」を打ち破るのは最低限所得保障か？

Suomalaisessa keskustelussa perustulo on kuitenkin esitetty aina 1990-luvulta lähtien nimenomaan ratkaisuksi työttömien aktivoimiseen ja kannustinloukkujen purkamiseen. Sen on nähty tekevän työnteosta aina kannattavaa. Tämä oli myös keskeinen syy, miksi Juha Sipilän hallitus oli kiinnostunut kokeilemaan perustuloa [...].

### ■ 語句・文法

on esitetty 「提示されてきた」 受完 < esittää / ratkaisu 「解決策」 < ratkaista / aktivoimiseen 「活性化させることに対する」 動名 [入] < aktivoida / kannustin-loukku 「福祉の罠 (英語では welfare trap、失業給付などが就労の動機づけを失わせるという考え)」 (kannustin 「インセンティブ、鼓舞するもの」 < kannustaa、loukku 「罠」) / purkamiseen 「バラバラにすることに対する」 動名 [入] < purkaa / Sen on nähty tekevän työnteosta aina kannattavaa 「それは労働を常にやる価値のあるものにする」とみなされてきた」 [分構] (on nähty 受完 「みなされてきた」 < nähdä、tekevän 「するのだ

と」能現分〔属〕 < tehdä, työn-teosta 「労働から」〔出〕 < työn-teko, kannattava 「やる価値のある」  
能現分 < kannattaa)

### ●フィンランド語理解のための訳例

フィンランドの議論においては|最低限所得保障はしかしながら提示されてきた|常に 1990 年代  
から|まさに〔解決策として|失業者を活性化させるための|そして、「福祉の罨」を打ち破るための〕。  
それ<=最低限所得保障>はみなされてきた|[するのだと|労働を常にやる価値のあるものに]。こ  
れがまた中心的な理由である、|なぜ Juha Sipilä 政権が関心を抱いたかの|[試してみることに|最  
低限所得保障を] [...]

### ◎意識

しかしながらフィンランドにおける議論では 1990 年代から常に、最低限所得保障は失業者を活  
性化させるための、そして「福祉の罨」を打ち破るための、まさに解決策として提示されてきたのである。  
最低限所得保障は労働を常にやる価値のあるものにするのだとみなされてきた。このことがまた、  
Juha Sipilä 政権が最低限所得保障の実験を行うことに関心を抱いた中心的な理由なのである  
[...]。

### ★補足

通常の失業給付金とは異なり、受給者が働いて収入を得たとしても「最低限所得保障」は減額さ  
れません。働くことにより給付金が減額されるのであれば、受給者の労働意欲は高まりませんが、最  
低限所得保障を受け取る失業者の場合には、働いたとしても受給額が減るわけではないので、就  
業率が高まるのではないかというのが政府のもくろみだったということのようです。それでは、政府の  
もくろみ通り実験は功を奏したのでしょうか。

### 【8】フィンランドの実験では就業促進の効果はほぼない。

Vuoden 2019 alussa julkaistuissa alustavissa tuloksissa oli tarkasteltu  
työllisyysvaikutuksia vain vuoden 2017 eli ensimmäisen kokeiluvuoden ajalta. Tässä  
raportissa julkaistavat vuoden 2018 työllisyysvaikutukset muistuttavat paljon  
vuoden 2017 tuloksia. Merkittäviä työllisyysvaikutuksia ei ole nytkään nähtävissä,  
joskin perustuloa saaneiden työllisyys oli vuonna 2018 jonkin verran parempi kuin  
verrokkiryhmän työllisyys [...].

### ■語句・文法

julkaistuissa 「公にされたような」〔複内〕 < julkaistu 受過分 < julkaista/alustavissa 「暫定的な、  
概略的な」〔複内〕 < alustava 能現分 < alustaa < alus/tuloksissa 「結果において」〔複内〕 < tulos  
< tulla/oli tarkasteltu 「調査された」受過完 < tarkastella/julkaistavat 「公にされるような」〔複  
主〕 < julkaistava 受現分 < julkaista/muistuttaa 「思い出させる、似ている」/merkittävä 「重要  
な」受現分 < merkittävä/nähtävissä 「見ることができる」〔複内〕 < nähtävä 受現分 < nähdä/  
joskin 「～ではあるとしても」/saaneiden 「受け取った人々の」〔複属〕 < saanut 能過分 < saada/

jonkin verran「ある程度は」

### ●フィンランド語理解のための訳例

[2019年の初めに|公にされた|暫定的な結果において]|調査されていた|[就業くに対する]影響が|ただ2017年の|つまり、最初の実験の年の期間から]。この報告書において|[公にされる|2018年の|就業くに関する]影響は]|思い出させる|たくさん|2017年の結果を。重大な就業くに関する]影響は|今も見られない、|[くつぎのようでは]あるにしても|最低限所得保障を受け取った人々の|就業く率]は|2018年には|ある程度よりよい|対照群の就業く率]よりも]。

### ◎意訳

2019年初めに発表された暫定的な結果では、最低所得保障の実験初年度である2017年の就業に対する影響のみが調査の対象となっていた。今回のこの報告書において発表される2018年の就業に対する影響を見ると、2017年の結果と非常によく似ていることがわかる。最低限所得保障の受給者たちの就業率は対照群と比べて、2018年度においてある程度は良好だったにしても、就業率に対する有意な効果は確認できていない。

### ★補足

結果的に政府が望んだ就業率の上昇は起こらず、この点では実験は期待を裏切ったことになるでしょう。しかし、最低限所得保障に期待されるのは就業率の上昇だけではありません。実験の実施に関する法律について議会の常設委員会での議論が始まってからは、実験では福祉・厚生に関わる効果にも注意を向けなければならないということになったそうです。それでは、最低限所得保障の福祉・厚生に対する影響について見ていくことにします。

### 【9】最低限所得保障を別の視点から見るべき

- a. Kaksi kiireellisintä maailmanlaajuista ongelmaa, joihin poliittisen päätöksenteon on puututtava, ovat laajalle levinnyt epätasa-arvo ja yhteen kietoutuvien ekologisten kriisien verkosto. Äärimmilleen globalisoituneessa maailmassa sosiaalinen epäoikeudenmukaisuus ja ympäristökysymykset ovat toisiinsa kytkeytyneitä ja samanaikaisia.
- b. Perustulo nähdään usein osana sosiaalisesti oikeudenmukaista ja ekologisesti kestävästä hyvinvointivaltiota [...].

### ■語句・文法

kiireellisintä「もっとも急を要する」[分] < kiireellisin 最 < kiireellinen < kiire / maa-ilmanlaajuinen「地球規模の」/ päätöksen-tekko「(政策)決定」/ on puututtava「介入しなければならない」(puututtava 受現分 < puuttua) / levinnyt「広がっているような」能過分 < levitä / epätasa-arvo「不平等」(⇔ tasa-arvo) / yhteen「一つに」[入] < yksi / kietoutuvien「結びつくような」[複属] < kietoutuva 能現分 < kietoutua < kietoa / verkosto「網、ネットワーク」 < verkko / äärimmilleen「極端に、究極まで」 / globalisoituneessa「グローバル化したような」[内] <

globalisoitunut 能過分 < globalisoitua (= globaalistua) / epä-oikeuden-mukaisuus 「不公正」 < -mukainen ⇔ oikeuden-mukaisuus < -mukainen 「公正な」 / toisiinsa 「おたがいへ」 [複入] + 複  
3 所接 < toinen / kytkeytyneitä 「結びつくような」 [複分] < kytkeytynyt 能過分 < kytkeytyä /  
oikeuden-mukainen 「公正な」 / hyvin-vointi-valtio 「福祉国家」

### ● フィンランド語理解のための訳例

- a. 二つのもっとも急を要する地球規模の問題は、|それに政治的決定が介入しなければならない、|  
広く広がっている不平等|そして、一つに絡み合っている生態的危機の網である。極端にまでグロ  
ーバル化した世界において|社会的な不正と環境問題は|たがいと結びついている|そして同時  
の〈もの〉である。
- b. 最低限所得保障はみなされる|しばしば|[一部だと|社会的に公正な|そして生態的に持続可  
能な|福祉国家の]。

### ◎ 意訳

- a. 政治的な決定によって介入すべきもっとも差し迫った二つの地球規模の問題は、広範に広がって  
いる不平等と、相互に関連するさまざまな生態系の危機が作り出す網の目である。極端なまでに  
グローバル化した世界においては、社会的な不正と環境問題は相互に関連するものであり、同時  
に進行している。
- b. 最低限所得保障はしばしば、社会的に公正で生態学的に持続可能な福祉国家の一部をなすも  
のとみなされる [...]。

### ★ 補足

現代における最大の問題が社会的な不正と環境問題であり、それらを解決するために最低限所得保障が有効だという考え方があるそうです。それでは、最低限所得保障というものについて、社会的公正と環境問題という二つの視点から考えていきます。

### 【10】最低限所得保障は富の公平な分配をめざす手段となりうる

- a. Perustulo voidaan nähdä tehokkaana ja oikeudenmukaisena välineenä jakaa tasaisemmin äärimmäisen keskittynyttä varallisuutta.
- b. Perustulo on automaattinen tulonsiirto, joka maksetaan säännöllisesti kaikille yhteiskunnan jäsenille työmarkkina-asemasta, perhesuhteista, varallisuudesta tai elämäntavasta riippumatta. Vaikka perustulo maksetaan myös suurituloisille, lopputulos on useimmissa perustulomalleissa tuloeroja tasoittava johtuen samaan aikaan tehtävästä verouudistuksesta.

### ■ 語句・文法

tehokkaana 「効率的な」 [様] < tehokas < teho / tasaisemmin 「より均等に」 [副] 比 < tasainen < tasa / äärimmäisen 「極端に」 [属] < äärimmäinen / keskittynyttä 「集中したような」 [分] < keskittynyt 能過分 < keskittyä / varallisuus 「富」 < varallinen < vara / tulon-siirto 「所得移転」 /

säännöllisesti「規則的に、定期的に」< säännöllinen < sääntö/työ-markkina-asema「労働市場における立場」/perhe-suhde「家族関係」/elämän-tapa「生活様式」/riippumatta「~にかかわらず、~に依存せず」(+ [出]) /suuri-tuloinen「収入の多い(人)」/useimmissa「ほとんどの」[複内]< usein 最 < usea/malleissa「モデルにおいて」[複内]< malli/tulo-ero「収入差」/tasoittava「平らにするような、均等化するような」能現分 < tasoittaa < tasa-/johtuen「~により」e不[具]< johtua (+ [出]) /tehtävästä「行われるような」[出]< tehtävä 受現分 < tehdä/vero-uudistus「税制改革」

### ●フィンランド語理解のための訳例

- a. 最低限所得保障はみなすことができる|[効果的な|そして公正な手段だと|分けるための|より均等に|極端に集中した富を]。
- b. 最低限所得保障は|自動的な所得移転である、|それは支払われる|定期的に|すべての社会の構成員に|[労働市場における立場、|家族関係、|富|あるいは生活様式に|関係なく]。最低限所得保障は支払われるが|また高所得者たちにも、|最終結果は|ほとんどの最低限所得保障のモデルにおいて|所得格差を均等化するようなものだ|同時に行われる税制改革によって。

### ◎意訳

- a. 最低限所得保障は、極度に集中した富をより均等に分配するための効果的で公正な手段であると考えることができる。
- b. 最低限所得保障とは自動的に行われる所得移転であり、労働市場における立場、家族の状況、富の量や生活様式に関わりなく、社会のすべての構成員に定期的に支払われるものである。最低限所得保障は高所得者にも支払われるが、最低限所得保障に関するほとんどのモデルにおいては、同時に実施される税制改革により最終的に所得格差は是正されることになるはずだ。

### ★補足

「日本経済新聞」のサイトに2021年12月27日に掲載された記事によれば、世界における格差は次のようになっているそうです

!!世界の上位1%の超富裕層の資産は世界全体の個人資産の37.8%を占めている。それに対して、下位50%の人々の資産を合計すると全体の2%にとどまっている。

!!世界全体の所得のうち、上位10%の富裕層が得ている額は52%に上る。それに対して、下位50%の人々の所得は全体のわずか8.5%だった。

!!日本では、上位10%の人々の資産が全体の57.8%を占め、そのうち最上位1%の人々の資産は全体の24.5%を占めていた。逆に、下位50%の人々の資産が全体に占める割合は5.8%だった。

<<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCB272Q20X21C21A2000000/>>.

これらの数値を見ると富や所得が非常識なほど偏って分配されていることがわかってと思います。これが世界の、そして日本の現実ですが、この状況を「望ましい」と考える人、「望ましくはないが仕

方がない」と考える人、「望ましくないので何かをすべきだ」と考える人、さまざまな考えの人々がいると思います。あなたは？

### 【11】失業や所得の不均衡な分配は何が問題なのか

- a. Usealle työttömälle työn menettäminen merkitsee ennen kaikkea toimeentulovaikeuksia. Rahan puute ei ole pelkästään sitä, että ei voi kuluttaa. Rahan puute kolonialisoi elämisen maailmaa ja kaventaa aikahorisonttia.
- b. Pitkä köyhydessä eläminen voi johtaa siihen, että ihminen kadottaa elämän hallinnan tunteensa eikä voi toimia täysivaltaisesti omaa elämää koskevissa päätöksissä.

#### ■ 語句・文法

menettäminen「失うこと」動名 < menettää < mennä / toimeen-tulo-vaikeus「生計<を得ることについての>困難」(toimeen-tulo「生計、生活費」) / puute「不足、欠乏」< puuttua / pelkästään「ただ単に」 / kuluttaa「消費する」< kulua / kolonialisoida「植民地化する」 / elämisen「生きることに、生活することの」動名 [属] < elää / kaventaa「狭める」< kapea / aika-horisontti「時間的的水平線、時間的視野、時間軸」 / johtaa siihen, että ~「~へと導く、~を引き起こす」 / kadottaa「失う」< kadota / hallinta「制御、コントロール」 / täysi-valtaisesti「自立して、独立して」< täysi-valtainen / koskevissa「関わるような」[複内] < koskeva 能現分 < koskea

#### ● フィンランド語理解のための訳例

- a. 多くの失業者にとって|仕事を失うことは|意味する|何よりも|生計の困難を。お金の不足は~ではない|ただ単に|消費ができないこと。お金の不足は植民地化する|生きる世界を、|そして狭める|時間的的水平線を。
- b. 長い|貧困の中で|生きることは|<次のことへ>導く|[人間は失う|生活のコントロールの|自らの感情を]|そして[機能できない|自立して|自分の人生に|関わるような決定において]。

#### ◎ 意訳

- a. 多くの失業者にとって、仕事を失うことは生計を立てることに関する困難を意味する。お金が不足しているということは、ただ単にモノが買えず消費生活ができないということではない。お金が不足しているということは人の「生活世界を植民地化」することであるし、時間的的水平線を狭めることでもある。
- b. 貧困の中で長く生きることにより、人は自分の生活をコントロールしているという感情を失い、そして自らの生活に関して自律的に決定をするということができなくなるのである。

#### ★ 補足

「生活世界を植民地化する」という表現が出てきましたが、これはドイツの社会学者であるユルゲン・ハーバーマスの提起した「システムによる生活世界の植民地化」という考え方を前提としたものです。その「システムによる生活世界の植民地化」については、次のような解説を引用しておきます。

(専門家からは異論が出されるでしょうが)「システム」とは目的を追求するために造られた組織的な世界です。会社や官庁等がこれに当たります。「生活世界」とは、普通の人たちが日常生活を営む空間の謂いです。家族や近隣のコミュニティがこれに当たります。「システムによる生活世界の植民地化」とは、すなわち会社や官庁の論理が、家族や近隣の間人間関係の中にまで浸透し、社会の全体を覆っていくことを意味しています。高度経済成長期の日本社会においては、この「システムによる生活世界の植民地化」が進行していったのです。(p.106)

#### ◇引用文献

小谷敏. 2018. 『怠ける権利!—過労死寸前の日本社会を救う 10 章』高文研. 106 ページ.

【11】の文章では、経済的な価値がすべてに優先する我々の社会というシステムにおいては、失業し、お金が不足している人間は「被植民者」の地位に陥り、自立することはできず、あるいは社会的に孤立したり、社会から排除されたりしてしまうといったことを意味しているのだらうと思います。

一方、aika-horisontti はどうも「有価証券などを保有しておこうとする期間」をさして使われることが多いようです(英語では time horizon というそうです)。【11】の文章の中では「時間的的水平線、時間軸、時間的視野」などと訳してもよいのかもしれませんが、「お金がないので一日一日をどう乗り越えていくのかに必死で、長い目で将来のことを考えたりする余裕がない、つまり、物事を見通したり計画したりする時間的視野が狭まる」といったことを意味しているのだらうと思います。

#### 【12】最低限所得保障実験の参加者たちは経済的ストレスをどのように感じているのか

Perustulon saajat raportoivat kyselyssä verrokkeja vähemmän toimeentulovaikeuksia, ja he kertoivat myös kokeneensa vähemmän taloudellista stressiä kuin vastaajat verrokkiryhmässä.

#### ■語句・文法

raportoida「報告する」/ kertoivat kokeneensa「経験したと話していた」[分構](kokeneensa 能過分 + 複3 所接 < kokea)

#### ●フィンランド語理解のための訳例

最低限所得保障の受給者たちは|報告していた|質問調査において|[対照群よりも|少なく|生計に関する困難を]|、|そして彼らは語っていた|また|[経験したと|より少なく|経済的ストレスを|回答者たちより|対照群における]。

#### ◎意訳

聞き取り調査において生計を立てることに関する困難を訴えた人々は、対照群に比べると最低限所得保障を受け取った人々の中では少なかった。また、対照群の回答者に比べて、最低限所得保障を受け取っていた人々は経済的ストレスを感じていないと語っていた。

### 【13】さらに幸福については

Aiemmassa hyvinvointitutkimuksessa on todettu, että parhaat yleistä hyvinvointia selittävät muuttujat ovat henkilön oma subjektiivinen arviointi onnellisuudesta ja elämään tyytyväisyydestään [...]. Perustuloa saaneista kyselyn vastaajista 51 prosenttia ja verrokeista 44 prosenttia kertoi olevansa joko aina tai suurimman osan ajastaan onnellisia. Perustuloa saaneet vastaajat olivat myös verrokkivastaajia tyytyväisempiä omaan elämäänsä. Sama pätee psyykkiseen kuormittuneisuuteen, masennukseen ja yksinäisyyden kokemuksiin. Tulokset ovat saman suuntaisia Kanadan [...], Barcelonan [...] ja Hollannin kokeiluissa saatujen tulosten kanssa.

#### ■ 語句・文法

aiemmassa「以前の」[内] < aiempi < aika/on todettu「観察されている、明らかにされている」受完 < todeta/parhaat「最高の」[複主] < paras 最 < hyvä/selittävät「説明するような」[複主] < selittävä 能現分 < selittää/muuttuja「変数」< muuttua/subjektiivinen「主観的な」/arviointi「評価」< arvioida/onnellisuudesta「自らの幸福について」[出]+ 単 3 所接 < onnellisuus < onnellinen < onni/tyytyväisyydestään「自らの満足度について」[出]+ 単 3 所接 < tyytyväisyys < tyytyväinen < tyytyä/vastaajista「回答者のうち」[複出] < vastaaja < vastata/verrokeista「対照群のうち」[複出] < verrokki/kertoi olevansa「～であると語った」[分構] (olevansa 能現分 + 単 3 所接 < olla) / suurimman osan ajastaan「自分の時間の大部分」(suurimman[属対] < suurin 最 < suuri, ajastaan [出]+ 単 3 所接 < aika) / verrokki-vastaajia「対照群の回答者たちより」[複分] < -vastaaja/tyytyväisempiä「より満足で」[複分] < tyytyväisempi 比 < tyytyväinen/päteä「当てはまる」/psyykinen「精神的な」/kuormittuneisuuteen「圧力を受けていることに、ストレスを感じていることに」[入] < kuormittuneisuus < kuormittunut 能過分 < kuormittua < kuormittaa < kuorma「荷、重荷、負担」/masennus「うつ病、意気消沈、落ち込み」/yksinäisyys「孤独」< yksinäinen < yksi/saman suuntainen「同じ方向の」/saatujen「得られたような」[複属] < saatu 受過分 < saada

#### ● フィンランド語理解のための訳例

以前の|厚生調査において|明らかにされている|最高の|一般的な厚生を|説明する変数は|[人の自らの主観的な評価|自らの幸福についての|そして生活に対する満足についての][...]。[最低限所得保障を受け取っていたような|聞き取り調査の回答者のうち]|51パーセントが|そして対照群のうち 44パーセントが|語った|[～であると|常に、あるいは自分の時間のうち大部分|幸福だ]。最低限所得保障を受け取っていた回答者たちはまた|対照群の回答者たちよりも|満足していた|自分の生活に。同じことは当てはまる|[精神的なストレスに、|気分の落ち込みに|そして孤独の経験に]。結果は同じ方向である|カナダの、|[バルセロナの|そしてオランダの実験において|得られた結果と]。

## ◎意識

以前に実施された厚生調査においては、全般的な厚生を説明する最善の変数は、幸福度や生活に対する満足度に関する自分自身の主観的な評価であることが明らかになっている[...]。最低限所得保障を受け取り、聞き取り調査に回答した人々のうち 51 パーセントが、そして対照群の中では 44 パーセントが、常に、あるいは大部分の時間において幸福であると話していた。最低限所得保障を受け取っていた回答者たちはまた、対照群の回答者たちよりも自らの生活に満足していた。ストレスを感じていること、気分が落ち込んでいること、あるいは孤独だという経験についても同じことが当てはまっており、つまり最低限所得保障を受給していた人々の方が、これら否定的な経験が少ないと回答している。これらの結論はカナダ、バルセロナ、そしてオランダの実験で得られた結論と同じ方向を向いている。

### 【14】最低限所得保障にはプラスの厚生効果がある？

Sekä Suomen kokeilussa että muissa kokeiluissa saadut tulokset viittaavat siihen, että perustulolla todennäköisesti on positiivisia hyvinvointivaikutuksia. Tai varovaisemmin ilmaistuna: tulosten pohjalta hyvinvointivaikutuksia ei voida sulkea pois. Aihetodisteet viittaavat positiivisiin vaikutuksiin.

#### ■ 語句・文法

saadut「入手されたような」受過分[複主] < saada / toden-näköisesti「おそらく」< toden-näköinen / varovaisemmin「より慎重に」[副]比 < varovainen < varoa / ilmaistuna「表現されれば」受過分[様] < ilmaista / sulkea pois「排除する、否定する」 / aihe-todiste「状況証拠、間接証拠」

#### ● フィンランド語理解のための訳例

フィンランドの実験において、|そして他の実験において|得られた結果は(次のことを)示している、|[最低限所得保障にはおそらくある|肯定的な厚生効果が]。あるいは、より慎重に表現すれば|:<実験の>結果にもとづけば|[厚生効果を|できない|排除すること]。状況証拠は示している|肯定的な影響を。

## ◎意識

フィンランドの実験において、そして他の実験において得られた結論によれば、最低限所得保障には厚生に関しておそらくプラスの効果がある。あるいは、より慎重にいうのであれば: 実験の結果にもとづけば、最低限所得保障には厚生上の効果がある可能性を排除することはできないだろう。状況証拠はプラスの効果があることを示している。

#### ★補足

さて、最低限所得保障の導入により富の均等な分配をうながし、それにより社会的格差を縮めることが重要だと考えられているわけです。それでは、なぜ重要なのかというと、それは我々が享受する「自由」と関係します。

## 【15】個人の自由と自己実現のためにこそ最低限所得保障はある？

- a. Perustulon kannattajat ovat väittäneet, että heidän ajamansa uudistukset tulisi toteuttaa, koska ne lisäävät yksilönvapauden määrää yhteiskunnassa.
- b. Perustulon tärkein päämäärä on tarjota mahdollisuuksia niille kansalaisille, joilla olisi ilman perustuloa vain vähän resursseja toteuttaa itseään.

### ■ 語句・文法

kannattaja「支持者」< kannattaa／väittää「主張する」／ajamansa「(彼らの) 追求するような」動分[複主対]+複3所接 < ajaa／uudistus「改革」< uudistaa < uusi／tulisi「しなければならないだろう」[条]単3 < tulla／yksilön-vapauden「個人の自由を」[属対] < -vapaus／tärkein「もっとも重要な」最 < tärkeä／resursseja「資源は」[複分] < resurssi

### ● フィンランド語理解のための訳例

- a. 最低限所得保障の支持者は主張してきた、|彼らが追求する改革は実施しなければならないと、|なぜなら、それらは増加させるから|[個人の自由の量を|社会における]。
- b. 最低限所得保障のもっとも重要な目的は提供することだ|可能性を|[次のような]市民に、|それらにはあるだろう|最低限所得保障なしでは|ほんの少しの資源だけが|自己を実現するための]。

### ◎ 意訳

- a. 最低限所得保障の支持者たちは、自分たちの追求する改革は社会における個人の自由度を高めるのであるから、それらは実現されなければならないと主張している。
- b. 最低限所得保障のもっとも重要な目的は、それがなければ自己実現するための資源がほんのわずかしかないうような市民にさまざまな可能性を提供することである。

### ★ 補足

フィンランドで実施された最低限所得保障に関する実験では、政府の望んだような就業率の増加は実現しませんでした。そのほかの面では肯定的な効果を表したといえるのかもしれませんが。ただし、最低限所得保障が単純に人々の「自由」や「可能性」を拡大させるのかどうか、よく考える必要があります。

## 【16】「自由」を活用できるためには、何か必要なものがあるだろう

Vastikkeettoman perustulon käyttöönotto ei välttämättä lisää kaikkien kansalaisten vapauden määrää, koska ihmisten kyvyt ja taidot ovat erilaiset. Perustulo todennäköisesti lisää autonomisten henkilöiden mahdollisuuksia suuresti, koska he osaavat hyödyntää saamansa uuden vapauden tehokkaasti. Ne henkilöt joiden heikot kognitiiviset kyvyt tekevät autonomian saavuttamisen vaikeaksi, eivät välttämättä osaa hyödyntää saamaansa vapautta tehokkaasti, koska heillä ei ole tähän psyykkisiä resursseja. (Perustulo ja vapaus, 191)

## ■ 語句・文法

käyttöön-otto「採用、導入、利用し始めること」／välttämättä「必ずしも(～ない)」MA 不[欠]<välttää／autonominen「自律した」／hyödyntää「活用する」< hyöty／saamansa「自分が手に入れたような」動分[属対]+ 複3所接／tehokkaasti「効率よく」< tehokas < teho／kognitiivinen「認知的な、認知力の」／autonomia「自律」／tekevät vaikeaksi「難しくする」／saavuttamisen「獲得することを」動名[属対]< saavuttaa < saapua／psyykinen「精神的な」

## ● フィンランド語理解のための訳例

無条件の最低限所得保障の採用は|必ずしも増やさない|すべての市民の自由の量を、|なぜなら|人々の能力や技能は|異なる。最低限所得保障はおそらく増やす|自律している人々の可能性を|大きく、|なぜなら彼らは活用できる|自分が手に入れた新たな自由を|効果的に。人々は|[それらの弱い認知的能力は|する|自律を獲得することを|難しく]、|必ずしもできない|[活用すること|自分が手に入れた自由を|効果的に]、|なぜなら彼らにはない|これへ|精神的な資源が。

## ◎ 意識

無条件に給付される最低限所得保障という制度を導入することは、すべての市民の自由を必ずしも高めるわけではない。なぜなら、個人個人の能力や技能というものは異なっているからである。最低限所得保障は、おそらく自律的人間の可能性というものは大きく増進させるだろう。なぜなら、彼らは新たに手に入れた自由を効果的に活用することができるからである。それに対して、不十分な認知能力により自律的能力の獲得が難しい人々は、自分が獲得した新たな自由を必ずしも効果的に活用することができない。なぜなら、彼らにはそうするための精神的資源というものがいないからである。

## ★ 補足

どうやら最低限所得保障そのものだけでは、人々の、ということは、つまり我々の自由を拡大させることはできないようです。それでは、最低限所得保障のような制度に加えて何が必要なのでしょうか。あくまでも、私の個人的な考えに沿って探っていくことにしますが、そこで一つの参考になるのが「ケイパビリティ(capability)」という考え方です。

## 【17】「ケイパビリティ・アプローチ」とは何か

Kyvykkyyksien lähestymistapa on kehittynyt filosofiassa viimeisten vuosikymmenten aikana uutena teoreettisena lähestymistapana oikeudenmukaisuuteen ja hyvinvointiin. Martha Nussbaum on laatinut sen yhdessä taloustieteilijä-filosofi Amartya Senin kanssa.<sup>756</sup> Lähestymistavassa on kaksi normatiivista väitettä: (1) moraalisesti tärkeintä on vapaus saavuttaa hyvinvointi ja (2) vapaus saavuttaa hyvinvointi on ymmärrettävä kyvykkyyksinä eli todellisina mahdollisuuksina tehdä ja olla sitä, mitä yksilöt itse arvostavat.

### ■ 語句・文法

kyvykkyys「ケイパビリティ、潜在能力」(次の「★補足」を参照) < kysykäs < kyky / lähestymis-tapa「接近方法、アプローチ」(lähestymis- < lähestyminen 動名 < lähestyä < lähi) / teoreettinen「理論的な」 / oikeuden-mukaisuuteen「公正へ」[入] < -mukaisuus < -mukainen / Martha Nussbaum (1947-) はアメリカ合衆国の哲学者・倫理学者 / talous-tieteilijä-filosofi「経済学者・哲学者」 / Amartya Sen (1933-) はインドの経済学者・哲学者 / normatiivinen「規範的な、基準となるような」 / väite「主張」 < väittää / moraalisesti「道徳的に」 < moraalinen < moraali / ymmärrettävä「理解されるべき」受現分 < ymmärtää / sitä, mitä yksilöt itse arvostavat「個人が自分自身で評価するようなこと・もの」

### ● フィンランド語理解のための訳例

ケイパビリティ・アプローチは発展してきた | 哲学において | 過去数十年の間に | 新しい理論的アプローチとして | 公正へ | そして厚生へ。マーサ・ヌスバウムは作った | それを | 一緒に | 経済学者・哲学者であるアマルティア・センと。このアプローチには二つの規範的な主張がある: (1) 道徳的にもっとも重要だ | [自由が | 達成するための | 厚生を] | そして (2) [自由は | 達成するための | 厚生を] | 理解されなければならない | ケイパビリティとして | つまり | 本当の可能性として | [するための | そして、あるための | 個人が自分自身で評価すること・もの]。

### ◎ 意訳

ケイパビリティ・アプローチは、正義と幸福に対する新しい理論的アプローチとして、ここ数十年の間に哲学の世界で発展してきた。マーサ・ヌスバウムが経済学者・哲学者であるアマルティア・センとともに、そのアプローチを構築してきた。このアプローチは二つの規範となるような主張を含んでいる: (1) 道徳的にもっとも重要なことは、幸福を達成する自由であるということ、(2) 幸福を達成する自由とはケイパビリティとして、すなわち、個人が自分自身で価値を認めることを行うための、そして価値を認めるものであるための実際の可能性として理解されなければならないということ、である。

### ★補足

この「ケイパビリティ」についてお話しする際には、手前味噌ですが、次の文献を参考にしていきます (どちらの論文も「東海大学文化社会学部 紀要」のサイトからダウンロードできます: <https://www.u-tokai.ac.jp/ud-cultural-and-social-studies/kiyou/>)。

1. 上倉あゆ子・吉田欣吾. 2021. 「子どもの十全な成長とリベラルな多文化主義 (1) — 北欧における手話を取り巻く環境の変化をきっかけとして」『東海大学紀要 文化社会学部』pp.1-32.
2. 上倉あゆ子・吉田欣吾. 2022. 「子どもの十全な成長とリベラルな多文化主義 (2) — 北欧における手話を取り巻く環境の変化をきっかけとして」『東海大学紀要 文化社会学部』pp.1-27.

ケイパビリティ・アプローチとは、経済学者として知られるアマルティア・センが 1979 年に行った講演「何のための平等か」において提唱したものとされています。capability の日本語訳として代表的なものには「潜在能力」「可能性」、そして「生き方の幅」などがありますが、ここでは「ケイパビリティ」としておきます。【17】に登場したマーサ・ヌスバウムはセンとともにケイパビリティ・アプローチを構築した重要な人物です。センがおもに経済学の分野を中心にケイパビリティ・アプローチを発展させたのに対して、ヌスバウムはおもに哲学の分野においてそれを展開してきました。

センやヌスバウムによるケイパビリティ・アプローチはすでに国際連合の「人間開発指数」や「人間の安全保障」という考え方の中に反映されています。1990 年に国連開発計画 (UNDP) は『人間開発報告書』という年次報告書を刊行しはじめましたが、その UNDP が採用しているのがケイパビリティ・アプローチだそうで、さらに UNDP の「人間開発」という考え方は国連の「人間の安全保障」の思想にも影響を与えているそうです。2000 年 9 月に当時のアナン国連事務総長が「人間の安全保障委員会」の設置を提案し、2001 年 1 月に国連の独立委員会として発足しました。その際、共同議長に就任した二人のうち一人が緒方貞子さんであり、もう一人がアマルティア・センさんでした。このように、国連の「人間の安全保障」の思想にもケイパビリティ・アプローチは生かされているわけです。

### 【18】「ケイパビリティ・アプローチ」の理論はアリストテレスにまでさかのぼる

Kyvykkyksien teoria pohjaa Aristoteleen etiikkaan. Aristoteleen ja Platonin teokset muodostavat historiallisen perustan länsimaiselle filosofialle. Teoksissa on esillä suurin osa niistä ongelmista, joita yhä tänä päivänä länsimaissa pidetään pohtimisen arvoisena. Aristoteleen vaikutus filosofian kehitykseen on yleisesti tunnettu. Hyvä elämä on yksi esimerkki Aristoteleen käsittelemistä teemoista, joita edelleen pidetään pohtimisen arvoisena.

#### ■ 語句・文法

pohjata「もとづく」< pohja / Aristoteles (:Aristotelee-)「アリストテレス」 / etiikka「倫理学、道徳哲学」 / Platon「プラトン」 / perusta「基盤、土台」 / on esillä「取り上げられている」 / pidetään「みなされる (+ [分] + [様])」受現 < pitää / pohtimisen arvoisena「検討する価値があるものだと」 (pohtimisen 動名 [属] < pohtia, arvoisena [様] < arvoinen < arvo) / hyvä elämä「よき生」 / Aristoteleen käsittelemistä teemoista「アリストテレスが扱ったテーマのうち」 (käsittelemistä [複出] < käsittelemä 動分 < käsitellä)

## ●フィンランド語理解のための訳例

ケイパビリティの理論はもとどく|アリストテレスの道徳哲学に。アリストテレスとプラトンの作品は形成する|歴史的な基盤を|西洋の哲学に対して。作品の中で|提示されている|[大部分が|問題のうち、|それらは|いまだ今日でも|西洋諸国において|みなされる|検討する価値があるのだと]。アリストテレスの影響は|哲学の発展への|一般的に知られている。「よき生」は一つの例である|アリストテレスの扱ったテーマのうち、|それらは依然としてみなされている|検討する価値があるものだと。

## ◎意訳

ケイパビリティ理論はアリストテレスの道徳哲学にもとづくものである。アリストテレスとプラトンの著作は、西洋哲学にとっての歴史的基礎となっている。彼らの著作においては、西欧諸国において今日でも検討に値するとみなされている問題のほとんどが登場している。哲学の発展にアリストテレスが与えた影響については、一般にもよく知られている。「よき生」というものは、アリストテレスが扱ったテーマのうちで依然として検討に値するとみなされるものの一例である。

## ★補足

アリストテレスに始まる概念としての hyvä elämä (英語では good life) は、「よき生」「善き生」という日本語に訳するのが一般的です。なお、セン自身もケイパビリティ・アプローチという考え方の起源は、アダム・スミスやカール・マルクス、そしてアリストテレスにまでさかのぼるといっています。

## 【19】アプローチのカギになることは何か

Nussbaum on laatinut listan keskeisimmistä inhimillisistä kyvykkyyksistä. Kymmenkohtaisessa listassa määritellään oikeudenmukaisen hyvinvoinnin tekijöitä. Keskeisten kyvykkyyksien lista sisältää ihmislajille tyypilliset kyvyt, joiden tulisi voida aktualisoitua hyvän ihmiselämän aikana, jotta elämää voisi kutsua hyväksi. Lähestymistavan avainkysymys on: mitä kukin yksilö kykenee tekemään ja olemaan (to do and to be)?

## ■語句・文法

keskeisimmistä inhimillisistä kyvykkyyksistä「もっとも中心的な人間的なケイパビリティについて」(keskeisimmistä [複出] < keskeisin 最 < keskeinen) / kymmen-kohtainen「10 項目の」/ tekijöitä「要因を、要素を」[複分] < tekijä < tehdä / ihmis-laji「ヒト(種としての人間)」/ joiden tulisi voida aktualisoitua「それらは実現できなければならないだろう」(aktualisoitua = aktuaalistua「実現する、現実のものとなる、顕在化する」/ elämää voisi kutsua hyväksi「生をよいものと呼べるだろう」/ avain-kysymys「カギとなる問題」/ kukin「それぞれの」/ kykenee「できる」(+ [入] ~ MA 不[入]) < kyetä ⇒ kyky)

## ●フィンランド語理解のための訳例

ヌスバウムは作成している|リストを|もっとも中心的な人間的ケイパビリティについて。10 項目のり

ストにおいて|特定している|公正な福祉の要因を。中心的なケイパビリティのリストは|含んでいる|ヒトに典型的な能力を、|[それらは実現できなければならないだろう|よき人間の生の間に]、|生をよきものと呼ぶことができるように。〈ケイパビリティ〉アプローチのカギとなる問題は:何を|それぞれの個人は|できるのか|することが (to do) |そして、〈〜で〉あることが (to be)。

### ◎意訳

ヌスバウムは、人間にとってもっとも中心的だと考えられるケイパビリティのリストを作成している。10項目に及ぶリストにおいては、公正な幸福を実現させるための要因というものが特定されている。生をよきものと呼ぶことができるために、人間のよき生の中で実現されなければならないはずだと考えられるような、そのようなヒトに特有の能力というものが中心的ケイパビリティのリストには含まれている。そして、ケイパビリティ・アプローチのカギとなる問題は「それぞれの個人が何をする事 (to do) ができ、そして何である事 (to be) ができるのか」ということである。

### ★補足

【19】の文章に出てきた「すること (to do)」と「〜である事 (to be)」のことをセンやヌスバウムたちは「機能 (toiminto, 英語: functioning)」と呼んでいます。これについては、【17】の「★補足」で挙げた上倉・吉田 (2021: 22) からの引用を参考にしてください。

[...]我々の生活は多種多様なことを「すること (doing)」やさまざまな状態で「いること (being)」が組み合わさることで成り立っている、ここでの「〜をすること」や「〜でいること」をセンは「機能」と呼んでいる。そして、この引用で「潜在能力」と訳されているものが「ケイパビリティ」であり、それは、さまざまな機能を実現するために人がもつべきものである。そして、そのケイパビリティが充実したものであればあるほど、実際に実現できる機能の可能性も広がるということになる。つまり、「ケイパビリティはある人が幾通りかの生き方 (つまり機能の組合せ) の中から選択できる自由を反映したもので」(セン 1999: 127) ある。したがって「機能の多様な組み合わせが生が多様性を意味するとすれば、ケイパビリティの幅が広がることは、人びとの生き方のかたちが多様性を増すことに通じ[……]その意味で、ケイパビリティの幅は個人の自由の幅を表す」(馬場 2015: 197)ということになる。

この引用の中の参考文献は次の通りです。

- アマルティア・セン (池本幸生・野上裕生・佐藤仁訳) (1999) 『不平等の再検討』岩波書店。
- 馬淵浩二. 2015. 『貧困の倫理学』平凡社新書。

我々の日常使う日本語からすると少し違和感があるだろうと思いますが、いろいろなことを「すること」、あるいは、いろいろな状態で「あること」を「機能」と呼んでいます。私たちの生活は、これらの機能が組み合わさって成り立っています。一方、「ケイパビリティ」とは、機能を実現するための前提条件です。つまり、多くのケイパビリティをもつほど、それだけ多くの機能を実現する可能性をもつこととなります。したがって、ケイパビリティが多ければ多いほど「生き方の幅」も広がることとなります。

さて、【19】の文章にはヌスバウムが中心的ケイパビリティのリストを作成しているとありますが、ここではヌスバウムのリストに簡潔な解説を付した馬場(2015: 203-204)を引用しておきます。

- ①生命(通常の長さの人生をおくることができる)
- ②身体健康(適切な栄養、住居、リプロダクティブ・ヘルス)
- ③身体不可侵性(暴力から安全であること、移動が自由であること)
- ④感覚・想像力・思考力(政治、宗教、芸術などの活動の自由を含む)
- ⑤感情(他者やものにたいする愛情など)
- ⑥実践理性(人生の計画について批判的に省察すること)
- ⑦連帯(他者とともに生きること、自尊・尊厳のための社会的基盤があること)
- ⑧ほかの種との共生
- ⑨遊び
- ⑩環境のコントロール(政治参加・言論の自由・結社の自由といった政治的なコントロール、所有権や職業といった物質的なコントロール)

#### ◇引用文献

馬淵浩二. 2015. 『貧困の倫理学』平凡社新書.

リストの一つ一つの項目について説明している余裕はありませんが、これらは我々がさまざまな「機能」を実現するうえで必要な「ケイパビリティ」ということになります。そして、これらのケイパビリティを手に入れることにより、我々は自分の「よき生」を実現するための自由を手に入れることになります。なお、ヌスバウム自身の著作については、次の文献が参考になります(とくに「中心的ケイパビリティ」のリストについては、85 ページ以降に説明があります。

#### ◇推薦図書

マーサ C. ヌスバウム(池本幸生・田口さつき・坪井ひろみ訳). 2005. 『女性と人間開発—潜在能力アプローチ』岩波書店.

#### 【20】ケイパビリティとは行為をする人間の「自由」を意味する

Teorian keskeinen termi on kyvykkyys (capabilities). Kyvykkyyksien avulla voidaan arvioida ihmisten hyvinvoinnin toteutumista paremmin kuin esimerkiksi tulotasoon perustuvilla köyhyysmittareilla. Kyvykkyyksien toteutuminen on yksilön vapautta tavoitella haluamiaan päämääriä. Kyvykkyyksistä puhuminen edellyttää siksi myös käsitystä toimijuudesta.

#### ■語句・文法

toteutumista「実現を」動名[分]< toteutua < tosi / tulo-taso「所得水準」 / perustuvilla「もつづくような」[複接]< perustuva 能現分 < perustua / köyhyys-mittari「貧困指標(貧困の度合いを測

るための基準)」/haluamiaan「自分が望むような」動分[複分]+ 単3所接 < haluta/toimijuus  
「行為主体であること、エージェンシー」< toimija < toimia

### ●フィンランド語理解のための訳例

〈ケイパビリティ・アプローチ〉理論の中心となる用語は|ケイパビリティ(capabilities)だ。ケイパビリティの助けにより|評価できる|人々の幸福の実現を|よりよく|たとえば所得水準にもとづくような貧困指標よりも。ケイパビリティが実現するということは|個人の[自由である|めざすための|自らが望む目標を]。ケイパビリティについて話すことは|前提とする|つまり|また概念を|行為主体についての。

### ◎意訳

ケイパビリティ・アプローチ理論の中心となる用語はケイパビリティ(capabilities)である。ケイパビリティという概念により、たとえば所得水準にもとづくような貧困指標よりも、人々の幸福の実現度をよりうまく評価することができるだろう。ケイパビリティが実現するということは、自らが望む目標を追求する自由を手に入れるということの意味する。したがって、ケイパビリティについて語るには、行為主体(エージェンシー)という概念の存在もまた前提となるのである。

### ★補足

人間の幸福について語る際にしばしば登場するのが、たとえばGDPといった言葉です。GDPが高ければ、それだけ国民は幸福だというわけです。このような考え方とケイパビリティ・アプローチが大きく異なるのは、それが個人の選択の自由や人間の多様性を重視している点です。

まず、人間は多様なので、GDPのような「財」では人の生活の質や幸福度は測ることはできません。これについてセンは「自転車」を例に挙げています。「自転車」という財を与えられても、たとえば車椅子に乗る人は、その「自転車」という財を便利な移動手段に変換することはできません。このように、人は多様なので、単に「どのくらいの財をもっているか」というようなことで、多様な人々の生活の質や幸福度を測ることはできないというわけです。

たとえば、日本のGDPは高いといわれますが、だからといって男女の間に依然として大きな不平等が存在する日本人について、男女間の不平等は無視してGDPだけを基準に「日本人は幸福だ」などとはいえないはずで。一方、小さいころから「結婚こそ女にとっての幸せだ」といわれ続け、自分でもそのような考え方を内面化してしまった人が、「私は幸福です」といったとしても、それを本当の意味で「幸福」とみなしてよいのかも問題です。そのため、「効用」、つまり自分が満足しているかどうか、という視点で人の生活の質や幸福度を測ろうとすることにも問題があるといえます。

また【20】には「自らが望む目標を追求する自由」という表現が出てきています。つまり、ケイパビリティ・アプローチが重視しているもう一つが「個人の選択の自由」です。そのために【20】の文章には重要な概念として「行為主体、エージェンシー」というものが出てくるわけです。結果的に、社会は人々にできるだけ多くのケイパビリティを獲得させるべきですが、そのケイパビリティをどう活用するかは個人の自由に任せるべきだということです。なぜなら、「よき生」というものを決めるのは我々一人一人であって、社会や国家が決めるべきことではないからです(残念ながら、個人の「よき生」

や「幸福」の中身を決める権利があると考えている国家や社会もあるような気がします。そのため、【20】の文章に出てきた「行為主体(エージェンシー)」という考えがケイパビリティ・アプローチにおいては重要だということになります。

なぜか北欧について話すときにも、すぐに「北欧はGDPが高い」ということを北欧の魅力として語るような人もいます。しかし、そんなGDPなどの「財」によって人々の「生活の質」を語ることはできないと知っているわけです。このあたりは北欧やフィンランドについて考えるときにも、十分に頭に入れておきたいと思います。

## 【21】つまり「ケイパビリティ」とは

Kyky voidaan siis ymmärtää henkilön hallussa olevaksi, hänen ominaisuuksiinsa perustuvaksi mahdollisuudeksi. Kyvykkyyteen voidaan ymmärtää kuuluvaksi kyky ja kyvyn käyttämisen edellyttämät sisäiset ja ulkoiset resurssit. Kyky ja kyvykkyys yhdessä voidaan ymmärtää kykenemiseksi (ableness).

### ■ 語句・文法

hallussa olevaksi「所持されているものだと」(hallussa「誰かに」所有されて)⇒ hallusta, haltuun, olevaksi「いるものだと」[変]< oleva 能現分< olla) / hänen ominaisuuksiinsa perustuvaksi mahdollisuudeksi「その人の特性にもとづくような可能性だと」(ominaisuuksiinsa [複入]+ 単3 所接 < ominaisuus < ominainen < oma、perustuvaksi [変]< perustuva 能現分 < perustua、mahdollisuudeksi [変]< mahdollisuus < mahdollinen ⇒ mahtaa) / kyvykkyyteen voidaan ymmärtää kuuluvaksi「ケイパビリティには属していると理解できる」(kuuluvaksi「属すのだと」[変]< kuuluva 能現分 < kuulua) / kyvyn käyttämisen edellyttämät sisäiset ja ulkoiset resurssit「能力を利用することが前提とするような内的、そして外的資源」(käyttämisen 動名[属]< käyttää、edellyttämät [複主]< edellyttämä 動分 < edellyttää < edeltää < esi-、resurssi「資源」) / kykenemiseksi「できるということだと」[変]< kykeneminen 動名 < kyetä

### ● フィンランド語理解のための訳例

能力は|つまり理解できる|[個人の所持するものだと、|その人の特性にもとづく可能性だと]。ケイパビリティには|理解できる|属すると|能力が|そして[能力を利用することが前提とするような|内的、そして外的な資源が]。能力とケイパビリティを|一緒に|理解できる|「できること」(ableness)だと。

### ◎ 意訳

したがって能力とは、個人がもつ個人の特性にもとづくような潜在能力だと理解することができる。ケイパビリティというものには能力だけではなく、その能力を発揮するための前提となるような内的および外的な資源が含まれているのだと理解できるだろう。そして、能力とケイパビリティとを合わせて「できること」(ableness)として理解することができる。

## ★補足

「内的資源」とはたとえば「フィンランド語を読む能力がある」といったことをさして、一方「外的資源」とは「フィンランド語を読む能力を身に着けるための学校があつたり教材が整っている」といったことをさしていると考えればよいと思います。

## 【22】ケイパビリティと社会の役割

Nussbaumin mukaan yhteiskunnan tulee tukea sisäisten kyvykkyyksien kehittymistä, jos se haluaa tukea tärkeimpiä inhimillisiä kyvykkyyksiä. Yhteiskunnassa noudatettu järjestys ja ulkoiset resurssit vaikuttavat ihmisen mahdollisuuksiin toimia ja kehittää kyvykkyyksiään. Kyvykkyysteoriassa ymmärretään yhteiskunnan tehtäväksi parantaa ihmisten elämänlaatua heidän kyvykkyyksiään kehittämällä. Yksilön hyvä elämä voi toteutua, jos hän saa kehittää sisäisiä kykyjään ja toteuttaa kyvykkyyksiään yhteisössä, jossa elää. Hyvä yhteiskunta on edellytys yksilön sisäisten kykyjen kehittymiselle ja kyvykkyyksien käyttöönottamiselle yhteisössä, jossa yksilö elää.

### ■ 語句・文法

kehittymistä「発展することを」[分]< kehittyminen 動名 < kehittyä／tärkeimpiä「もっとも重要な」[複分]< tärkein 最 < tärkeä／noudatettu「したがわれているような、守られているような」受過分 < noudattaa < noutaa／järjestys「秩序」< järjestää < järki／kyvykkyyksiään「自らのケイパビリティを」[複分]+ 単 3 所接 < kyvykkyys／ymmärretään yhteiskunnan tehtäväksi parantaa「改善することを社会がすべきことだと理解する」(tehtäväksi [変]< tehtävä 受現分 < tehdä)／kehittämällä「発展させることにより」MA 不 [接]< kehittää／kehittymiselle「発展することによって」動名 [向]< kehittyä < kehittää／käyttöön-ottamiselle「活用することによって」(käyttöön [入]< käyttö < käyttää, ottamiselle [向]< ottaminen 動名 < ottaa)

### ● フィンランド語理解のための訳例

ヌスバウムによれば|社会は支援しなければならない|内的ケイパビリティが発展することを、|もしそれが支援したいのであれば|もっとも重要な人間的なケイパビリティを。社会において|守られている|秩序と|外的な資源は|影響する|人間の可能性に|[行動するための|そして発展させるための|自らのケイパビリティを]。ケイパビリティ理論においては|理解される|社会がすべきだと|[改善することを|人々の生活の質を|彼らのケイパビリティを発展させることにより]。個人のよき生は|実現できる、|もし個人ができれば|[発展させることが|自らの内的能力を]|そして[実現することが|自らのケイパビリティを]|[共同体において、|そこで生きている]。よい社会は|前提である|個人の内的能力の発展にとって|そしてケイパビリティの活用にとって|[共同体において|そこで個人は生きている]。

### ◎ 意訳

ヌスバウムによると、もしもっとも重要だと考えられる人間のケイパビリティを社会が支援したいと

思うのであれば、内的ケイパビリティの発展を社会は支援しなければならない。社会において順守されている秩序と外的資源は、人が行動し、自らのケイパビリティを発展させる可能性というものに影響を与える。ケイパビリティ理論においては、人々のケイパビリティを発展させることで人々の生活の質を高めることが社会の役割だと理解される。自分が生きている共同体の中で、個人が自らの能力を発展させ、そして自らのケイパビリティを実現させることができるのであれば、個人のよき生というものが実現されうることになる。自分が生きる共同体において内的能力を発展させ、またケイパビリティを活用するための前提となるのが「よき社会」の存在であるということになる。

#### ★補足

【22】に「内的ケイパビリティ」という言葉が出てきますが、あまり気にする必要はないと思います。念のためヌスバウムの説明を引用しておきます。

##### ●「基礎的ケイパビリティ」

これは個人の生来の素質であり[……]しばしば多かれ少なかれ機能する用意ができています。普通、「見る」や「聞く」といったケイパビリティは、そのようなものである。(99 ページ)

##### ●「内的ケイパビリティ」

基礎的ケイパビリティとは異なり、これらの状態はもっと成熟したレベルで実現する準備ができています。準備ができていう状況は、単に時間がかかるだけで身体的成熟を待てばよいだけのこともある。[……]ほとんどすべての人間の子どもは、母語を話せるようになります。必要なのは、その言語が話されているのを大事な時期に十分に聞くことである。しかし、他の人と遊び、愛し、政治的選択を行使するといった内的能力は周りからの支援を受けて発達するものである。(99 ページ)

##### ●「結合的ケイパビリティ」

内的ケイパビリティが、その機能を発揮するための適切な外的条件が存在している状態と定義される。宗教的自由や表現の自由に慣れ親しんできた人がもはやそのように振舞えなくなったとしよう。そのとき、その人は内的なケイパビリティは十分に持っているものの、結合的ケイパビリティは持っていない。(100 ページ)

#### ◇引用文献

マーサ C. ヌスバウム(池本幸生・田口さつき・坪井ひろみ訳). 2005. 『女性と人間開発—潜在能力アプローチ』岩波書店.

#### 【23】社会は「ケイパビリティ」獲得を支援するが、何が幸福かを決めることはできない

Ihmisten kyvykkydet toteutuvat parhaiten yhteiskunnassa, jonka institutionaaliset rakenteet on järjestetty siten, että ne lisäävät ihmisten aitoja mahdollisuuksia valita eri toimintavaihtoehtoista omalta kannalta paras, ja eri mahdollisuuksista toimia heille itselleen ja heidän yhteisölleen sopivin. Pelkkä ulkoisten resurssien jakaminen ei turvaa hyvinvointia, koska ihmisillä on erilaisia tarpeita ja kykyjä käyttää resursseja hyvinvointinsa edistämiseen.

## ■ 語句・文法

parhaiten「もっともよく」最 < hyvin / institutionaalinen「制度上の、組織上の」⇒ instituutio / on järjestetty「組織されている」受完 < järjestää < järki / siten, että ~「~のように」 / aitoja mahdollisuuksia valita「選択するための本当の可能性を」(valita「選択する」は直前の mahdollisuuksia「可能性」を修飾) / valita eri toiminta-vaihto-ehdoista ... paras「さまざまな行為の選択肢の中から最善なものを選ぶ」(toiminta-vaihto-ehdoista「行為の選択肢の中から」[複出] < -ehto, paras「最善なものを」が valita の目的語, paras「最善のものを」最 [主対] < hyvä) / omalta kannalta「自らの観点から」 / eri mahdollisuuksista toimia ... sopivin「行動するための、さまざまな可能性の中から最適なものを(選択する)」(toimia「行動する」は直前の mahdollisuuksista「可能性の中から」を修飾, sopivin「最適なものを」は valita の目的語, sopivin「もっとも適切なものを」最 [主対] < sopiva 能現分 < sopia) / heille itselleen ja heidän yhteisölleen「彼ら自身にとって、そして彼らの共同体にとって」 / edistämiseen「促進することへ」動名 [入] < edistää < esi-

✦ 2行目の että に続く節が分かりづらいかもしれないので追加説明しておきます。

### A. **ne lisäävät**

「それらは増やす」[主語と述語動詞]

### B. ihmisten aitoja **mahdollisuuksia valita**

「選択するための人間の本当の可能性を」[目的語]

### C. eri toimintavaihtoehtoista omalta kannalta **paras,**

「さまざまな行為の選択肢の中から | 自らの観点からして | 最善のものを < 選択する >」

[文全体の目的語である B に含まれている valita「選択する」につながる部分①]

ja「そして」

### D. eri mahdollisuuksista toimia heille itselleen ja heidän yhteisölleen **sopivin.**

「行動するための、さまざまな可能性の中から | 自分自身と彼らの共同体にとって | 最適なものを < 選択する >」

[文全体の目的語である B に含まれている valita「選択する」につながる部分②]

別の言い方をすれば、

Ne lisäävät mahdollisuuksia valita paras ja sopivin.

「それらは増やす | 可能性を | 選ぶための | 最善のものを | そして最適なものを」

「それらは最善のものと最適なものを選択する可能性を高める」

が文の骨組みです。

## ● フィンランド語理解のための訳例

人のケイパビリティは実現する | もっともよく | 社会において、 | その制度構造は組織されている |

〈次の〉ように|それらは増やす|人々の本当の可能性を|選ぶための|[さまざまな行為の選択肢の中から|自らの観点から|最善のものを]、|そして[さまざまな可能性の中から|行動するための|彼らへ|自分自身へ|そして彼らの共同体へ|もっとも適切なものを]。単なる|外的資源を分けることは|保障しない|幸福を、|なぜなら人々にはある|さまざまな必要性が|そして[能力が|利用するための|資源を|幸福を増進させることへ]。

### ◎意識

さまざまな行動の選択肢の中から自分の観点で最善だと思うものを選択できる本当の可能性を増大させるように、そして行動するための可能性の中から自分たち自身や自分の属する共同体にとって最適なものを選択できる可能性を増大させるように、そのように制度的構造が設計されている社会においてケイパビリティはもっともよく実現される。ただ単に外的資源を分配することだけでは幸福を保障することはできない。なぜなら、人々はさまざまなことを必要としているし、あるいは幸福を増進させるのに資源を活用する能力もさまざまであるからである。

### ★補足

人はさまざまな「機能(すること、～であること)」を実現させ生きていくことになりますが、それら「機能」を実現させるための前提条件となるのがケイパビリティです。そして、人が可能な限り多くのケイパビリティを獲得できるように社会は努めるべきだというのが、ケイパビリティ・アプローチの考え方なのだろうと思います。そのため、【19】の後の「★補足」で挙げた馬場(2015: 197)が指摘していることですが、capability を「生き方の幅」という日本語に訳すのはすばらしいことだと思います(「生き方の幅」と訳したのは次の文献です)。

◇川本隆史. 1995. 『現代倫理学の冒険—社会理論のネットワークへ』創文社. p.88.

さて、「最低限所得保障」に話を戻しましょう。「最低限所得保障」は社会の富の均等な分配を促進するという意味において、不公正を是正し、人々の「自由」を拡大させるという重要な意味をもつ可能性があります。ただし、最低限所得保障というような「財」あるいは「外的資源」だけでは自由は広がりません。それが実現するためには、たとえば充実した教育制度の整備や男女間の平等、少数民族や性的少数者、あるいは移民など社会的に不公正に直面しやすい人々の「ケイパビリティ」獲得を支援することが、社会のあるべき姿だということになります。言い換えれば、すべての人々の「生き方の幅」を広げることが、社会の果たすべき役割だという結論に至ります。

それでは、社会的公正とともに最低限所得保障に期待すべき事柄として【9】において言及された環境問題・生態的持続可能性の問題を少しだけ見ていきます。具体的には、環境問題を引き起こしている最大の要因である生産と消費に対して、最低限所得保障が何をもちたらしえるのか考えていくことにします。

## 【24】最低限所得保障により生産のあり方を変えるのが国の役割

Valtion rooli on tukea yksilöitä, esimerkiksi perustulon avulla, jotta näillä olisi paremmat edellytykset työskennellä myös sosiaalista ja ekologista tuotantoa harjoittavissa, yhteisresursseja hyödyntävissä yhteiskunnallisissa yrityksissä.

### ■ 語句・文法

näillä「これらに(=個人に)」[接] <nämä/paremmat「よりよい」[複主]<parempi 比 <hyvä/sosiaalinen ja ekologinen tuotanto「社会生態学的生産」(社会的・生態学的に持続可能な発展の考え方に沿うような生産) /harjoittavissa「行うような」[複内]<harjoittava 能現分 <harjoittaa「実践する」 / yhteis-resurssi「共有資源」 / hyödyntävissä「活用するよう」[複内] <hyödyntävä 能現分 <hyödyntää <hyöty / yhteis-kunnallinen yritys「社会的企業」

### ● フィンランド語理解のための訳例

国の役割は支援することである | 個人を、 | たとえば最低限所得保障の助けて、 | その人たちによりよい前提条件があるようにするために | [働くための | また社会生態学的生産を行うような、 | 共有資源を活用するよう社会企業において]。

### ◎ 意識

社会生態学的生産を行うような、そして共有資源を活用するよう社会企業において個人が働くための前提条件が整うよう、たとえば最低限所得保障を通じて個人を支援することが国家の役割である。

### ★ 補足

【24】の文章は現在の経済体制に対する選択肢となりうるものとして vertais-talous(「ピアツーピア経済」)や「参加型経済(osallisuus-talous)」というものについて語る中での記述です。これらについてはテーマIVで、少しですが触れることになるかもしれません。ここでは気にしないでください。また、文章に出てきた二つの表現について補足しておきます。

- ? 「社会生態学的生産」: 自然の世界と人間社会の活動が調和のとれた状態を保ち、生物多様性を維持していけるような人間の生産活動
- ? 「社会的企業」: 社会的な問題(たとえば高齢者介護や差別)などの解決を目指す企業

ここでの問題意識は、生産と消費に変化をもたらさなければ生態的持続可能性などめざすことはできないということだろうと思います。最低限所得保障を受給しているために「給料が高い」ということではなく「社会的に意味がある」という動機で仕事に就くことが期待され、その結果として持続可能な世界を構築するのに不適切な企業で働く人が減り、逆に環境に負荷をかけないような働き方をめざす人が増えるだろうということなのだと思います。そして、生産と表裏の関係にあるものが「消費」ですので、持続可能な世界を築くためには我々の「消費」習慣というものを変える必要があります。その消費を減らすにはどうすればよいのでしょうか。

## 【25】最低限所得保障により労働時間を減らすことが重要

Taloukasvua ja kulutusta voidaan hillitä kestäväällä tavalla, jos työntekijät vähentävät vapaaehtoisesti työaikaansa ja tyytyvät pienempiin palkkoihin [...]. Edellä mainitsemamme perustulon tai kansalaispalkan käyttöönotto olisi yksi mahdollisuus tukea työajan lyhentämistä. Kaikille maksettava perustulo vähentäisi oletettavasti palkkatyön merkitystä, kannustaisi ihmisiä hakeutumaan mielekkäämmiltä tuntuviin töihin ja muuttaisi ylitöiden tekemistä arvostavaa kulttuuria [...].

### ■ 語句・文法

kulutus「消費」< kuluttaa < kulua / hillitä「抑制する」 / vapaa-ehtoisesti「自発的に」< vapaaehtoinen / pienempiin「より小さな」[複入]< pienempi 比 < pieni / palkkoihin「給料に」[複入]< palkka / edellä mainitsemamme「前述したような」(mainitsemamme「我々が言及したような」動分 + 複1所接 < mainita) / kansalais-palkka「市民給付」≡ perustulo / käyttöönotto「導入、採用」< ottaa käyttöön / lyhentämistä「短くすることを」動名[分] < lyhentää < lyhyt / maksettava「支払われるような」受現分 < maksaa / vähentäisi「減らすだろう」[条] 現単 3 < vähentää / oletettavasti「おそらく、推定では」< oletettava < olettaa / kannustaisi「鼓舞するだろう」[条] 現単 3 < kannustaa / hakeutua「～に向かう」< hakea / mielekkäämmiltä tuntuviin töihin「より有意義だと感じられる仕事へ」(mielekkäämmiltä [複奪] > mielekkäämpi 比 < mielekäs「合理的な、有意義な」、tuntuviin「～のように感じられるような」[複入] < tuntuva 能現分 < tuntua + [奪]) / ylitöiden tekemistä arvostavaa kulttuuria「残業をすることを評価するような文化を」(tekemistä「することを」動名[分] < tehdä, arvostavaa「評価するような」能現分[分] < arvostaa「(高く)評価する」)

### ● フィンランド語理解のための訳例

経済成長と消費は抑制できる | 持続的な方法で、 | もし労働者が減らせば | 自発的に労働時間を | そして、満足すれば | より低い賃金に。前に我々が述べた最低限所得保障あるいは市民所得の導入は | [一つの可能性だろう | 支えるための | 労働時間の短縮を]。すべての人に支払われる最低限所得保障はおそらく [減らすだろう | 賃金労働の重要性を]、 | [鼓舞するだろう | 人々が向かうように | より有意義だと感じられるような仕事へ] | そして [変えるだろう | 残業をすることを評価するような文化を]。

### ◎ 意識

労働者たちが自発的に労働時間を減らし、より低い賃金に満足するのであれば、経済成長と消費は持続可能な形で抑制することができる。すでに我々が言及した最低限所得保障や市民所得制度の導入は、労働時間の短縮を支援する一つの可能性だろう。すべての人に支払われる最低限所得保障は、おそらく賃金労働の意味を低下させ、より有意義だと感じられる仕事に人々が向かうよう鼓舞するものとなるだろうし、あるいは残業を高く評価するような文化を変化させるものとなるだろう。

### ★補足

フィンランドでは kansalais-palkka「市民給付」という語は perus-tulo「最低限所得保障(ベーシックインカム)」とほぼ同じ意味で使われる場合もあれば、perus-tulo とは異なるものとして、その導入を主張する人々もいるようです。

### 【26】

Moniulotteista hyvinvointia edistävä sosiaalipolitiikka voisi rohkaista palkkatyön ja kulutuksen sijaan vapaaehtoiseen elämäntavan kohtuullistamiseen (downshifting). Työajan lyhentäminen ja perustulon käyttöönotto kuuluvat tässäkin uuden sosiaalipolitiikan keinoihin.

### ■語句・文法

moni-ulotteinen「多次元の、多元的な」/ edistävä「促進させるような」能現分 < edistää / rohkaista「励ます、勇気づける」(+ [入]) < rohkea / kohtuullistamiseen「適度なものにすることへ、ダウンシフトすることへ」動名 [入] < kohtuullistaa < kohtuullinen < kohtuu-

### ●フィンランド語理解のための訳例

多元的な幸福を|促進させるような社会政策は|勇気づけるだろう|[賃金労働の|そして消費の代わりに] | [自発的な|生活様式の|適度なものにすることへ (downshifting)]。労働時間を短縮すること|そして最低限所得保障の導入は|含まれる|ここでも|新しい社会政策の手段に。

### ◎意訳

多面的な幸福を促進するような社会政策は、賃金労働や消費の代わりに自発的に生活様式を「ほどほどのものにすること」(downshifting)へと人々を促すことができるだろう。労働時間の短縮や最低限所得保障の導入は、ここでも新しい社会政策の手段の一つとなっている。

### ★補足

英語の downshifting は直訳をすれば「ギアを下げる」という意味のようです。つまり、労働時間を減らしたり、あるいは生活水準を少し下げて、その分だけ精神的な豊かさを取り戻そうといった考え方や実践のことだろうと思っています。この語に相当するものとして kohtuullistaminen という語が使われています。

環境問題を解決し持続可能な世界を作るためには、生活全体のあり方、あるいは「生活様式」を変えることを迫られています。このようなことを考えると、たかだかマスクをして人に近づかないようにすることを「新しい生活様式」などと呼んでいるようでは、「生活様式」が怒りのあまり爆発するでしょう。本当の意味での「生活様式の変化」については、テーマIVでも少し考えていきたいと思っています。ここでは、そのような生活様式の変化を促す可能性をもつ「労働時間の短縮」という問題に目を向けたわけですが、前首相 Sanna Marin さんの考えについて、2020年の新聞記事と2019年の Marin さんのツイートを読んで終わることにします。

## 【27】Marin 前首相は社民党に労働時間短縮の具体案策定を指示

Pääministeri Sanna Marin haluaa, että hänen johtamansa sosialidemokraattinen puolue valmistelee seuraavien kolmen vuoden aikana konkreettiset esitykset siitä, miten Suomessa lyhennetään työaika palkkoja leikkaamatta. ....

- Onko se kahdeksan tuntia se lopullinen totuus? Minun mielestäni ihmiset ansaitsevat enemmän aikaa perheittensä, läheistensä, harrastusten ja sivistyksen parissa. Tämä voisi olla se seuraava askel meille työelämässä, Marin puhui nelipäiväisen työviikon ja kuusituntisten työpäivien puolesta.

### ■ 語句・文法

pää-ministeri「首相」／hänen johtamansa「彼女の率いるような」動分 + 単 3 所接 < johtaa / seuraavien「次の、続くような」[複属] < seuraava 能現分 < seurata / konkreettinen「具体的な」 / lyhennetään「短縮する」受現 < lyhentää < lyhyt / leikkaamatta「削減せずに」MA 不[欠] < leikata「切る」 / ansaita「値する、(何かを得る)資格がある」 / sivistys「教養、文化、文明」 < sivistää / parissa「～と共に」⇒ parista, pariin / neli-päiväinen「4 日間の」 / kuusi-tuntinen「6 時間の」

### ● フィンランド語理解のための訳例

Sanna marin 首相は望んでいる、|彼女が率いる社会民主党が準備することを|次の 3 年の間に|具体的な提案を|[どのようにフィンランドで短縮するのかについて|労働時間を|給料を削減せずに]。[...]

—8 時間(労働)は最終的な真理なのか。私の考えでは|人々は値する|[より多くの時間(を過ごすこと)|自分の家族と(ともに)、|親しい人々と(ともに)、|趣味や教養を深めることをしながら]。これは次の一歩かもしれない|我々にとって|労働生活における、|と Marin は話した|週 4 日労働と 6 時間労働を支持する立場から。

### ◎ 意訳

Sanna Marin 首相は彼女が党首を務める社会民主党に対して、フィンランドにおいて賃金を削減せずに労働時間をいかに短縮するのかという問題について具体的な提案を、次の 3 年間の間に準備することを期待している。[...]

—8 時間労働というものが最後の真理なのだろうか。私の考えでは、人々はより多くの時間を家族や親しい人々と過ごし、あるいは趣味や教養などにより多くの時間を費やす資格があるはずだ。これは私たちにとって労働生活における新しい一歩になるかもしれない、と Marin 首相は週 4 日 6 時間労働を支持する立場から語った。

### ★ 補足

労働時間を減らすことには大賛成ですが、「同じ給料で」というところについてはどう考えるべきか判断が付きません。給料を下げることは生活水準を下げることになりますので問題があるようにも思いますが、一方【25】に書かれていたように、環境問題を解決するために消費を減らす必要があ

るのであれば、給料を下げるべきだと思います。いずれにしても、大きな困難に出会う人が出てこないような形で変革は勧める必要があります。

### 【28】ユートピアが現実。「理想主義」こそ政治のあるべき姿では？(Marinさんのツイート)

Työajan lyhentämisestä voi ja pitää keskustella. 4 päivän työviikko tai 6 tunnin työpäivä elämiseen riittävällä palkalla on tänään ehkä utopiaa, mutta voi olla tulevaisuudessa totta.

#### ■ 語句・文法

lyhentämisestä「短くすることについて」動名[出] < lyhentää < lyhetä < lyhyt / elämiseen riittävällä palkalla「生活するのに十分な給料による」(elämiseen「生活すること」動名[入] < elää、riittävällä「十分な」能現分[接] < riittää) / utopia「ユートピア、非現実的な空想」

#### ● フィンランド語理解のための訳例

労働時間の短縮については|できる|そして、しなければならない|議論することを。[週 4 日労働や 1 日 6 時間労働は|生きるのに十分な給料による]|今日ではおそらくユートピアだ、|しかし将来においては現実であるかもしれない。

#### ◎ 意識

労働時間を短縮するという問題については議論することができるし、また議論すべきでもある。十分な給料を受け取っての週 4 日労働、あるいは一日 6 時間労働というものは、現在ではおそらくユートピアのような話だろう。しかし、将来においては現実であるかもしれない。

◆出典

【1】:

Härmä, Tomas & Nea Nasib. “Kestävän kehityksen keskeiset käsitteet”. Opetushallitus.  
<<https://www.oph.fi/fi/opettajat-ja-kasvattajat/kestavan-kehityksen-keskeiset-kasitteet>>.

【2】【4】:

Valtioneuvosto. 2021. *Hallituksen kestävyystiekartta: valtioneuvoston julkaisuja 2021:43*. (30 ページ)  
<[https://julkaisut.valtioneuvosto.fi/bitstream/handle/10024/163068/VN\\_2021\\_43.pdf?sequence=1&isAllowed=y](https://julkaisut.valtioneuvosto.fi/bitstream/handle/10024/163068/VN_2021_43.pdf?sequence=1&isAllowed=y)>

【3】【5】【6】【8】【11a】【11b】【12】【13】【14】:

Kangas, Olli, Signe Jauhiainen, Miska Simanainen & Minna Ylikännö (toim.). 2020. *Suomen perustulokeilun arviointi*. Sosiaali- ja terveystieteiden ministeriö.  
<[https://julkaisut.valtioneuvosto.fi/bitstream/handle/10024/162219/STM\\_2020\\_15\\_rap.pdf](https://julkaisut.valtioneuvosto.fi/bitstream/handle/10024/162219/STM_2020_15_rap.pdf)>.

【3】【5】9 ページ、【6】169 ページ、【8】170 ページ、【11a】171 ページ、【11b】172 ページ、  
【12】171 ページ、【13】172 ページ、【14】:172-173 ページ

【7】:

Kananen, Johannes (toim.). 2019. *Sosiaaliturva työn murroksessa – palkkatyö, yrittäjyys ja toimeentulon riskit*. Valtioneuvoston selvitys- ja tutkimustoiminta. (52 ページ).  
<[https://julkaisut.valtioneuvosto.fi/bitstream/handle/10024/161479/VNTEAS\\_2019\\_22\\_Sosiaaliturva\\_tyon\\_murroksessa.pdf?sequence=1&isAllowed=y](https://julkaisut.valtioneuvosto.fi/bitstream/handle/10024/161479/VNTEAS_2019_22_Sosiaaliturva_tyon_murroksessa.pdf?sequence=1&isAllowed=y)>.

【9a】:

Lahtinen, Petri. 2023. ”Perustulon ympäristövaikutuksista”. *Komeetta*.  
<<https://komeetta.info/2023/03/30/perustulon-ymparistovaikutuksista/>>

【9b】【25】【26】:

Helne, Tuula, Tuuli Hirvilampi & Markku Laatu. 2012. *Sosiaalipolitiikka rajallisella maapallolla*. Kelan tutkimusosasto.  
<[https://helda.helsinki.fi/bitstream/handle/10138/34643/Sosiaalipolitiikka\\_rajallisella\\_maapallolla.pdf?sequence=4&isAllowed=y](https://helda.helsinki.fi/bitstream/handle/10138/34643/Sosiaalipolitiikka_rajallisella_maapallolla.pdf?sequence=4&isAllowed=y)>.

【9b】88 ページ、【25】94 ページ、【26】99 ページ

【10a】【10b】:

Perkiö, Johanna & Jouko Kajanoja. 2015. ”Perustulo ja uusi työllisyyspolitiikka”. Jakonen, Mikko & Tiina Silvasti (toim.). *Talouden uudet muodot*. into. (273 ページ)

【15】【16】:

Kantola, Markus. 2014. ”Perustulo ja vapaus: onko perustulo sosiaalisesti oikeudenmukainen?”.

*Janus: Sosiaalipolitiikan ja Sosiaalityön tutkimuksen aikakauslehti*. vol. 22 (2). (183-193 ページ).  
<<https://journal.fi/janus/issue/view/3398>>.

【15】185 ページ、【16】191 ページ

【17】～【23】:

Nikula Karoliina. 2015. *Lapsen hyvää edistämässä: Syntymäkuurojen lasten sisäkorvaistutehoitokäytännön sosiaalieettistä tarkastelua*. Helsinki.

【17】180 ページ、【18】181 ページ、【19】187 ページ、【20】188 ページ、【21】192-193 ページ、  
【22】182 ページ、【23】183 ページ

【24】:

Forss, Mikko & Ohto Kanninen. 2013. *Kuplia, kuohuntaa ja utopioita*. Sitra. (38-39 ページ).  
<<https://www.sitra.fi/app/uploads/2017/05/Selvityksia69.pdf>>.

【27】:

Ristamäki, Juha & Mika Koskinen. 2020. ”Pääministeri Marin vaatii lyhyempää työaika: ”Yksi tapa jakaa vaurautta on tehtyjen työtuntien vähentäminen siten, ettei palkkataso heikkene””.  
*Iltalehti* (2020.8.24).  
<<https://www.iltalehti.fi/politiikka/a/a247b313-f47f-47f8-8d95-93c922c121c0>>.

【28】:

*Sanna Marin Twitter* 2019.8.19. <<https://twitter.com/MarinSanna/status/1163372847894544384>>.

\*\*\*\*\*

## 🐍 蛇足

今回取り上げた「ケイパビリティ」については、すでに紹介しましたが、次の文献の第 6 章が分かりやすいと思います。

📖 馬淵浩二. 2015. 『貧困の倫理学』平凡社新書.

あるいは次のような文献も勉強になります。

📖 神島裕子 (2013) 『マーサ・ヌスバウム——人間性涵養の哲学』中央公論新社.

📖 アマルティア・セン (池本幸生・野上裕生・佐藤仁 訳) (2018) 『不平等の再検討—潜在能力と自由』岩波書店.

📖 マーサ C. ヌスバウム (池本幸生・田口さつき・坪井ひろみ 訳) (2005) 『女性と人間開発——潜在能力アプローチ』岩波現代文庫.

次の文献にはスウェーデンとフィンランドの研究者の論考も含まれています。

📖 マーサ・ヌスバウム／アマルティア・セン編著 (竹友安彦 監修・水谷めぐみ 訳). 2006. 『クオリティ・オブ・ライフ——豊かさの本質とは』里文出版.

労働時間に関しては、私は常に「人間はもっと怠惰でよいのではないか」と思ってきました。大学の授業では自分の嫌いな言葉として「お得」「リーズナブル」などと並んで「勤勉」をいつも挙げてきました (聞いている学生の多くが嫌な顔をしていたような気がしますが)。さて、「働くこと」については、次のような文献が参考になると思います。

📖 バートランド・ラッセル (堀秀彦・柿村峻 訳). 2009. 『怠惰への讃歌』平凡社.

📖 ポール・ラファルグ (田淵晋也 訳). 2008. 『怠ける権利』平凡社.

📖 小谷敏. 2018. 『怠ける権利!—過労死寸前の日本社会を救う 10 章』高文研.

📖 酒井隆史. 2021. 『ブルシット・ジョブの謎—クソどうでもいい仕事はなぜ増えるか』講談社現代新書.

📖 礪川全次. 2014. 『日本人はいつから働きすぎになったのか—〈勤勉〉の誕生』平凡社.

📖 植村邦彦. 2019. 『隠された奴隷制』集英社新書.

最低限所得保障 (ベーシックインカム) についても、読みやすいものを数冊挙げておきます。

📖 山森亮. 2009. 『ベーシック・インカム入門—無条件給付の基本所得を考える』光文社新書.

📖 井上智洋. 2018. 『AI 時代の新・ベーシックインカム論』光文社新書.

📖 原田泰. 2015. 『ベーシック・インカム—国家は貧困問題を解決できるか』中公新書.

さて、最後にもう一つだけ資料を追加しておきます。就業率や雇用についても、この資料の中に書かれているような発想の転換が必要な気がします。もちろん、困窮する人がさらに困窮するような状況を生み出さずに、ということは当たり前の前提ですが。

### 【追加】「高い就業率を」という常識こそ問題にすべき？

Jos ekologinen kriisi aiotaan ottaa vakavasti, ekologisesti kestäväntä tuotantoa on supistettava rajusti työllisyysvaikutuksista riippumatta. Toki ekologinen rakennemuutos myös synnyttää työpaikkoja. Joka tapauksessa korkean työllisyyden tavoittelu itseisarvona on mielestäni haitallinen ajattelutapa. Kaikkea tuotantoa olisi arvotettava sen kautta mitkä ovat sen sosiaaliset ja ekologiset vaikutukset, eikä kestäväntä tuotantoa ole järkeä ylläpitää työllisyysvaikutuksiin vedoten.

#### ■ 語句・文法

ottaa vakavasti「真剣に受け止める」／kestämätön「持続可能ではないような」／tuotanto「生産」  
supistettava「縮小すべき」受現分 < supistaa／rajusti「激しく」／itseis-arvona「本質的価値として」  
[様]< -arvo／haitallinen「有害な」< haitta／arvostettava「評価すべき」受現分 < arvostaa < arvo  
／sen kautta ~「~を通して」／on järkeä「理性的である、合理的である、理に適う」／yllä-pitää (=  
pitää yllä)「維持する」／vedoten「アピールすることにより、~に訴えることにより」e 不 [具]< vedota  
< veto

#### ● フィンランド語理解のための訳例

もし生態的な危機を|するつもりなら|真剣に受け止める、|生態的に持続不可能な生産を|縮小  
すべきである|激しく|就業(雇用)への影響にかかわらず。実は生態的な構造変化はまた|生み出  
す|仕事場を。いずれにしても|高い就業率をめざすこと|本質的価値として|私の考えでは|有害な|  
考え方。すべての生産を|評価すべきだろう|〈つぎのことを〉通して|何なのか|その社会的な|そして  
生態的な影響は、|そして持続不可能な生産を|合理的ではない|維持することは|就業への影響へ  
訴えることにより。

#### ◎ 意訳

もし生態学的危機を深刻に受け止めようとするのであれば、雇用に対する影響にかかわらず生態学的に持続不可能な生産は劇的に縮小すべきである。実のところ、生態学的な方向への構造変化は雇用を生み出すのであるが。いずれにしても、高い就業率の達成を自明のものとして目標とすることは有害な考え方だと私は思っている。生産はすべて、その社会的影響と生態学影響がどのようなものなのかを通して評価すべきであろう。そして、雇用への影響に訴えることで持続不可能な生産を維持することは合理的なことではない。

#### ◆ 出典

Tapanainen, Maippi. 2018. ”Perustulotutkija Johanna Perkiö: Perustulo panisi työmarkkinoiden pelisäännöt uusiksi”. *KU ajassa taustat dialogi*.  
<<https://www.ku.fi/artikkeli/3947060-perustulotutkija-johanna-perkio-perustulo-panisi-tyomarkkinoiden-pelisaannot-uusiksi>.>